

湘南泉病院看護職員 キャリア開発過程

湘南泉病院 看護部 平成25年 7月 改訂

キャリア区分	ステップⅠ（新人・新入職・役割）	ステップⅡ（3年以上）	ステップⅢ（5年未満）	ステップⅣ（10年未満）	ステップⅤ（10年以上）
到達目標	基本的な看護実践ができ、チームメンバーの役割と責任を果たすことができる。	受持ち患者に必要な看護が実践できる。 チームリーダーの役割を理解し、リーダー業務ができる。	個別的な看護が実践でき、チームリーダーの役割と責任を果たすことができる。 他部門との連携取りながら、個別性に応じた回復への支援体制を取ることができる。	看護実践において後輩のモデルとなり、自らがめざす領域に進むことができる。	専門的能力やマネジメント能力を發揮して、組織の目的達成に貢献することができる。
看護実践能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護基準、手順を基に安全な看護を実施することができる。 2. 相手を尊重した言動やプライバシーを保護した行動がとれる。 3. 相手に関心を持って話を聞き、解りやすく易く話すことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護知識、技術を深め根拠に基づいた看護実践ができる。 2. 受け持ち患者の個性性を考えた看護過程が展開できる。 3. 患者の生命や家族を含めた人権を尊重することができる。 4. 自己・他者理解を深め、患者・家族に適切な態度で接することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の状況に応じたアセスメントができ、個別的な看護ができる。 2. 自己の行動に責任を持ち、患者、家族の人権を尊重した看護を実践できる。 3. 仕事を進める上で自己コントロールができ、相手の立場を尊重した行動ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理論的知識と経験を統合した看護が実践でき、後輩のモデルとなることができる。 2. 看護を迫及し質の高い看護が提供できる。 3. 倫理的問題について、患者・家族を尊重した対処ができる。 4. コミュニケーションを図り、良い人間関係をとることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 培ってきた看護実践をもとに創造的な看護ができる。 2. 倫理的問題について、医療チームと連携をとり対処できる。 3. 他者との信頼関係を築き、チームワーク作りに貢献できる。
看護管理能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームメンバーとしての役割と責任を果たすことができる。 2. 組織の一員としてルールを踏まえた行動がとれる。 3. 適切な報告、連絡、相談ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームリーダーの役割を理解し、リーダー業務ができる。 2. 自分の責任と能力を意識し実践した看護に責任を持つことができる。 3. 時間、物を有効に活用し、無駄の無い行動がとれる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームリーダーとしての役割と責任を果たすことができる。 2. 他部門と連携し、個々の支援体制をとることができる。 3. 看護単位の業務改善に建設的な意見を述べ、参加できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の理念、目標を理解し看護単位における問題解決に積極的に参加できる。 2. 職場における自己の役割を自覚し、チーム活性化の原動力となることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療チームと協働して、組織、理念・目標や看護単位の目標達成にリーダーシップをとることができる。 2. マネジメント能力を身につけ、状況に応じた冷静で柔軟な対応ができる。
教育研究能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不明確な知識や技術を明らかにすることができる。 2. 文献や情報を活用して、自分自身の学習課題に取組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 後輩に基準・手順に沿い、基本的な看護技術の指導ができる。 2. 根拠に基づいた看護実践を行うため、自分の課題を明らかにし、学習につなげることができる。 3. 看護実践を通し、自己の看護に責任ある行動ができる。 4. 受持ち患者の事例から提供した看護を振り返り、今後の課題にいかす。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. プリセプターの役割をとることができる。 2. 看護実践を通し、自分の看護に責ある行動ができる。 3. 受持ち患者の事例から提供した看護を振り返り、今後の課題にいかす。 4. 看護実践から自己の課題を見つけ主体的に学習することができる。 5. チームの一員として、看護研究に取組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者としての役割をとることができる。 2. 自己の看護実践力を評価し、自らがめざす領域を決め、進むことができる。 3. 看護研究に主体的に取組み、看護研究に繋げることができる。 4. 自己の死生観、看護観を深めることができる。 5. 職業人として、自己実現に向けて取組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフ個々の能力を見極めて、適切な支援ができる。 2. 自ら目指す領域の学習を深め、能力を向上することができる。 3. 看護研究においてリーダーシップが取れる。